

日本なし「幸水」の大果生産に有効な夏季せん定の時期とせん定量						
<p>[要約] 日本なし「幸水」の大果生産のためには6月下旬に<u>夏季せん定</u>を行う。その量は全体の<u>発育枝</u>の3分の1で、これにより2S以下の果実の割合が少なくなり、4L以上の<u>大果</u>の割合が高くなる。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

なしの生育期である6～7月は高温多湿の梅雨にあたるため、発育枝の発生、伸長が著しく樹冠下への光透過率が悪くなり、果実の肥大、品質の低下を招いている。そこで夏季せん定による果実の肥大と品質向上効果を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- ①夏季せん定を行うことによって樹冠下照度が高くなる。特に主幹に近い部分の照度の増加が多い(図1)。
- ②夏季せん定を行うことによって大果の割合が高くなる。特に6月20日に夏季せん定を行うと2S以下の果実が少なく、4L以上の果実割合が多くなる(図2)。
- ③6月20日に夏季せん定を行うことによって、果実の糖度が高くなる傾向にある(表1)。

[成果の活用面・留意点]

過度の夏季せん定は樹勢を弱らせ、逆効果となる。夏季せん定は発育枝の3分の1を枝抜きするくらいに留める。

[ 具体的データ ]

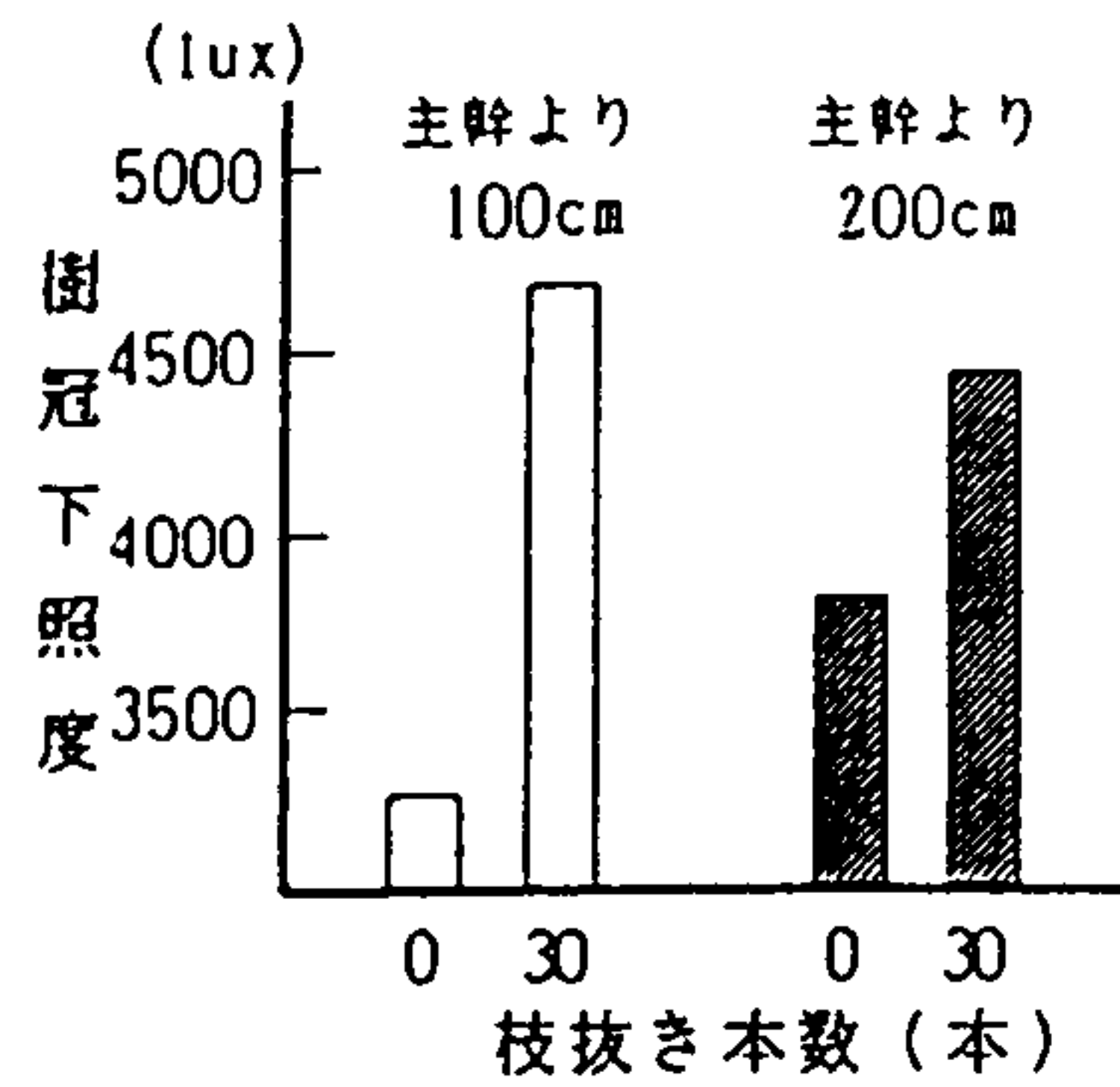


図1 夏季せん定の程度と樹冠下照度

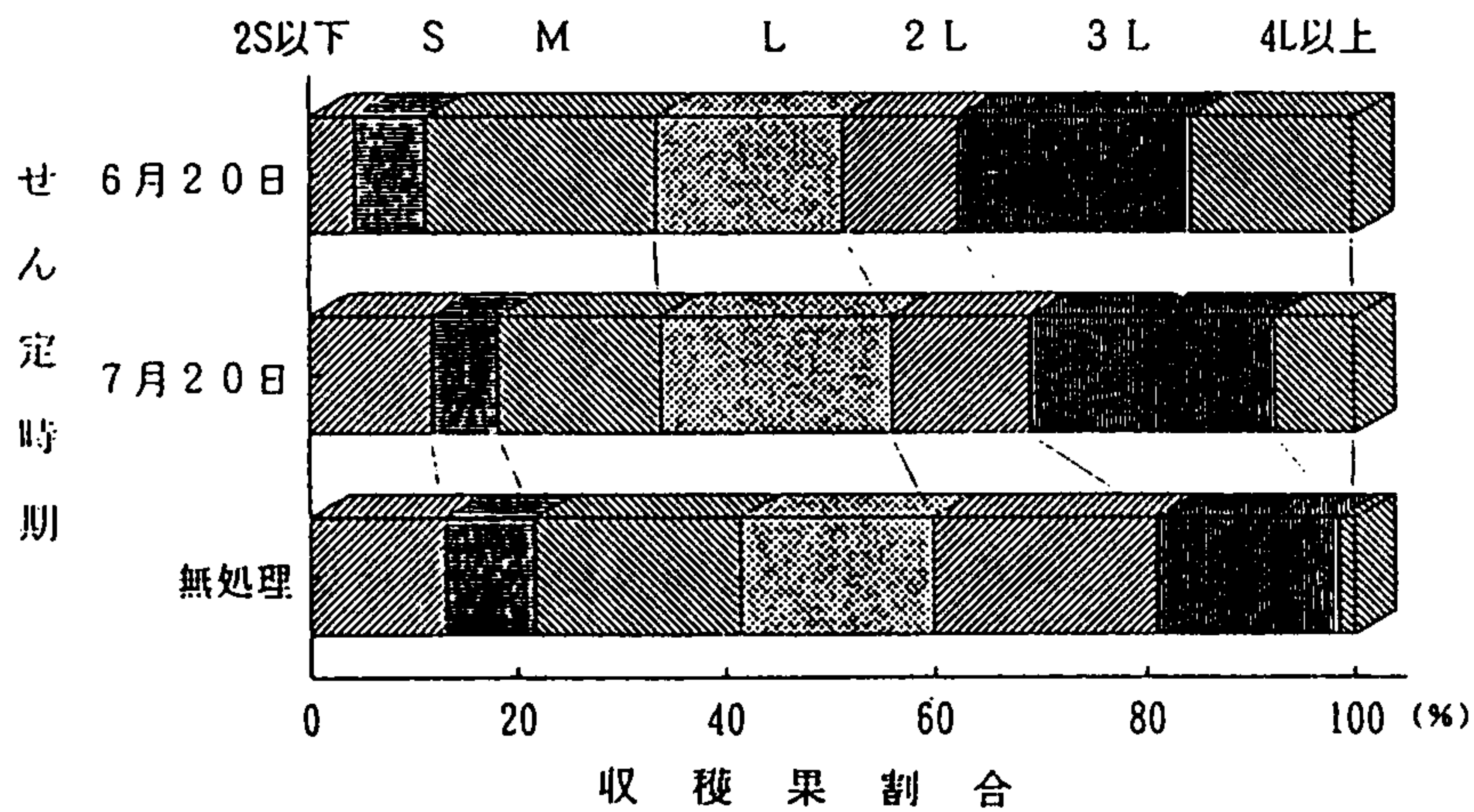


図2 夏季せん定の時期と収穫果の階級割合

表1 夏季せん定の時期と果実品質

処理時期	果皮色 <sup>*</sup>	果肉硬度 (kg)	糖度	pH
6月20日	2.4b <sup>†</sup>	3.6a	11.6a	4.99b
7月20日	2.7a	3.6a	11.3a	5.06ab
無処理	2.9a	3.3b	10.9a	5.09a

\* ナシ地色用カラーチャート値

† 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

[ その他 ]

研究課題名：落葉果樹の高品質果実生産手法の確立試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年（平成4～8年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：樹勢の低下を招かない範囲で果実の肥大、品質の向上に有効な夏季せん定の程度が不明である。